

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00357

研究課題名(和文) 少年 少女 表象の社会文化史的研究 民国期児童雑誌を中心に

研究課題名(英文) Sociocultural Study on Representation of boy and girl :Focusing on Children's Magazines in the Republic of China period

研究代表者

佐々木 睦 (SASAKI, MAKOTO)

東京都立大学・人文科学研究科・教授

研究者番号：20315732

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)： 中華民国期の児童雑誌を主たる研究資料として少年・少女表象を調査した。そこに描かれているのは、冒険を愛する少年、侵略者に立ち向かう少年であり、また歌舞劇を演じる少女、スポーツをする少女であった。また、国語(国家統一言語)普及政策の下、正しい国語を身につけた少女たちがレコード、映画という新しいメディアの中で活躍した。

同時代の児童は戦争や貧困にも直面した。『児童世界』が第一次上海事変を機に、愛国少年のための雑誌へと変貌し、『新少年』が貧困児童にも寄り添った記事を多く載せたことを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、少年と少女という概念が中華民国期に生じたことを指摘し、その表象を整理・分析したこと、その作業を通じ今後の研究基盤を形成したことである。少年・少女の形成において多くのメディアが関与したこと、また同時代の日本のメディアが一部影響を与えたことの指摘も大きな価値を持つだろう。

また本課題で取り扱った児童と戦争、児童と貧困という問題は、現代社会とも通じる深刻なテーマであり、その研究は大きな社会的意義をもっている。

研究成果の概要(英文)：We investigated Representation of boy and girl using children's magazines in the Republic of China period as the main materia. There are many images of boys love adventure, boys confronting the invaders, girls play operetta, and girls play sports. Under the policy of the national language spread, the girls with accurate pronunciation showed great success in new media, record and movies.

研究分野：中国文学

キーワード：児童 少年 少女 雑誌 児童文学 児童表象 漫画 戦争

1. 研究開始当初の背景

本研究は先行する「民国期児童雑誌の研究——商務印書館編訳所の活動と児童表象を軸に」（2014-2016, 課題番号:26370412, 研究代表者:佐々木睦）の後継課題と位置付けられる。先行課題においては、民国期児童雑誌に対する基礎的研究を行なった。そして、代表的二社である商務印書館の刊行した『児童画報』や中華書局の刊行した『小朋友』に、日本の児童雑誌『コドモ』、『幼年倶楽部』、『少年倶楽部』の漫画が絵物語に描き換えられて転載されていることを具体的に指摘した。また『小朋友』誌が国語普及を目指すグループの児童向けプロパガンダ誌としての側面を持っていたことを実証することで、商務印書館と中華書局の児童雑誌編集の方針の違いを明確にした。さらに各誌に新生活運動の影響が見られることを明らかにするなど、民国期児童雑誌研究に新しい視点を導入し、全体像を概観する上で一定の成果を挙げた。

その中で直面した次なる課題は、児童雑誌研究にジェンダー的視点を導入する必要性である。この時期の児童雑誌の誌面には明らかに少年・少女の描き分けが見られる。この少年らしさ、少女らしさがどのように成立し、どのような少年像、少女像が期待されていたのか、その解明が本研究の課題である。

なお、中国語の「少年（男女を包括し年齢幅も広い）」と区別するため、概念としての少年(boy)、少女(girl)について語る際、本報告書では少年、少女と記す。

2. 研究の目的

当時の誌面には科学や軍事知識の習得が期待された理想的少年像が見られる。また、女子児童や女学生にターゲットを絞った雑誌には、「新女性」を誕生させた時代の息吹を反映し、新しい少女像が見られる。少年・少女は時代を読み解くキーワードであると言えよう。近代中国における少年・少女表象を、テキストと図像分析によって社会文化史的に解明することが本研究の最大の目的である。究明すべきテーマは以下のように整理される。

少年・少女がいかなる歴史・社会的要因から形成され、少年らしさや少女らしさがテキスト（雑誌記事、小説等）図像にどう表象されているか。

少年・少女たちは性差や役割を自らどう規定し、それをどのように発信したか。

民国期に形成された少年・少女はそれ以前の児童像とどう異なるか、また新中国の少年・少女像や他国の少年・少女像とはどのような点で異なるか。

3. 研究の方法

(1) 研究組織

研究グループは3名からなり、以下のような役割分担に基づき、少年・少女像の共時的、通時的解明にあたった（所属は2022年4月現在）。

佐々木睦（研究代表者:東京都立大学）全体を統括するとともに、民国期児童雑誌に見られる少年・少女表象の解析にあたる。

加部勇一郎（研究分担者:立命館大学）清末から新中国に到る児童雑誌を対象に、児童観・児童表象の通時的解明を行う。

上原かおり（研究分担者:フェリス女学院大学）民国期を中心に、児童、少年雑誌の科学記事における日本・欧米の児童雑誌の影響を調査するとともに少年表象分析にあたる。

(2) 研究資料

研究資料は民国期及び新中国の代表的児童雑誌を中心とする。具体的には、民国期のものとして、幼年から小学生向けの『児童画報』（商務印書館）『児童世界』（同）『小朋友』（中華書局）より高い年齢層向けの『少年』（商務印書館）『新少年』（開明書店）『中学生雑誌』（商務印書館）を核心的資料とした。さらに新中国のものとしては『児童時代』（上海福利会出版社）を代表として選定した。また、その他の児童向け読み物（歌舞劇台本、連環画など）や児童に関する著作全般を視野に入れた。また、少年・少女表象の成立にあたっては、読者でもあった彼ら自身の活動も研究対象としなくてはならない。この点については、児童雑誌の読者投稿欄が、各時代の少年・少女が社会をどのように見つめていたかの重要な資料となる。さらに、対象を文字テキストに限定せず、表紙絵、挿絵、広告なども図像資料として採用する。これら全てが一体となって少年・少女表象解析の基盤資料をなす。

(3) 研究方法（実際の成果に即して）

我々は資料の収集・整理、資料解析、議論と成果発表という一連のプロセスに従って研究を行った。

上記資料について、その一部は先行課題において収集済みであるが、本課題の中心テーマである「少年」「少女」表象に関する資料を海外調査（中国国家図書館、上海図書館その他）によって収集した。資料解析にはテキスト解析、画像学的手法を用いた分析を行ったが、これらの資料を社会文化史的に研究するために、歴史、経済、教育、出版、流行文化など、あらゆる視点を含めてそれを試みた（下記4参照）。

また、定例研究会を開催し、メンバーが報告を行なうとともに、議論を交わして分析結果を統合した。その成果は論文、著書の形で世に問うとともに、研究成果発信事業として、発表論文を中国語に翻訳し、一冊にまとめて刊行した。本研究を通じて得られた知見については、大学の講義でも最新の研究成果として講じている。今後は一般向け著作としても刊行し、研究成果の民間への還元を果たす必要がある。

4. 研究成果

研究期間全体を通じて、上記3(2)に掲げた以外にも、物価、玩具、お菓子やその包み紙、動物、写真雑誌など、様々な視点からのアプローチを試みた。その結果、多様な「少年」「少女」像が浮かび上がってきた。

まず言葉の面に関してだが、民国期には「少年」という語にゆらぎが生じていることを指摘しなければならない。すなわちこの時期の資料には「少男少女」という新しい表現が登場する。また、「男性的少年」「女性的少年」という用例も見られる。これらは、本来男女を包括し、年齢幅も広い「少年」という言葉を、まずジェンダー的に男性、女性で分けようとした試みであり、また、「少年」のうち高年齢の者たちと低年齢の者たちを、別の語で表現し分けようとした試みでもある。「男性的少年」「女性的少年」はその後の使用は見られないが、「少男少女」は現在でも児童向けコンテンツで見られる。これらは、英語のboyやgirlに相当する、概念としての「少年」「少女」の成立の萌芽と見なされよう。「少男」が単独で使用されないように、この新しい概念や言葉が完全に定着することはなかったが、数多くの資料を通覧することにより、民国期に生じた、新しい「少年」「少女」像の輪郭をつかむことができた。

少女と新メディア

民国期メディアの中で少女たちは躍動した。その活躍を読み解くキーワードは「聴覚(音声)」と「視覚」である。

『小朋友』初代編集長であった黎錦暉は、編集長を辞した後は国語(国家による統一言語)の普及も兼ねた児童歌舞劇団活動に身を投じる。中心役者であった長女黎明暉はレコード歌手として(「毛毛雨」他)後には映画女優としても活躍する。黎錦暉の児童歌舞団は1927年頃から次第に少女歌舞団となっていく。中心役者であった黎明暉の成長により、児童歌舞団から脱却を図らねばならなかったという事情もあるが、そのヒントとなったのは、「葡萄仙子」の増訂版(1927?)序文で黎錦暉自身が記しているように、日本の宝塚少女歌劇団の影響であろう。1930年の東北公演においては現地日文紙『満洲日報』に「日本の寶塚少女歌劇に匹敵する」と紹介されるほどであった。明月歌舞団(名月社)からは他に黎莉莉、王人美らが映画界でも活躍した。彼女たちは国語普及を目指す民国社会の中で、黎錦暉の劇団で培われた「正しい発音」という音声的武器を手に、歌舞劇、レコード、映画という新しいメディアの中で躍動する新時代の少女だった。

最も少女と親和性の高いメディアは写真であった。1920年刊行の『図画時報』(刊行時は『時報』副刊『図画週刊』)は中国で最初の写真をメインに据えた副刊であり、刊行当初は社会問題に紙面を割いたが、1929年ごろから少女(女子学生を中心とする)写真の掲載が増え、全頁がまるまる少女写真で埋め尽くされることもあった。初期には学校で上演された黎錦暉の歌舞劇の扮装をする者が多く見られる。後には7月には卒業式の、夏からはスポーツ選手、特に8月には水泳(水着)写真が紙面を飾り、そこには写真という民国期に著しい普及を見せた視覚メディアによってアイドル化した少女たちの姿が立ち現れている。この傾向は『号外』など他の写真画報にも見られる。『良友』や『玲瓏』などが競ってモダンな女性の写真を掲載したこととも歩みを一にしていて、ここには写真という視覚的なメディアを、進歩した印刷技法で掲載した刊行物が、その競争的な商業活動の中で少女の視覚的、外的美のみを強調するという傾向が見て取れるが、『図画時報』はその極端な一例と言えよう。同時期の『図画時報』には彼女らと同年代の少年たちの写真の掲載はほとんど見られない。この時代の少年たちには他のことが期待されていたのだ。

* 佐々木睦「黎錦暉『葡萄仙子』と宝塚少女歌劇」(『人文学報』516-2, 2020)

* 佐々木睦「民国期少女ブームの幻を追う」『図画時報』を中心に(研究会12, 2022.3)

少年と戦争

第一次上海事変(1932)を境として、『児童世界』の誌面作りに大きな変化が見られる。初代

編集長鄭振鐸による、現実社会と物語の世界は切り離して考えるべきという主張は昔のものとなり、現実社会と連動した抗日愛国的な物語が多く掲載されるようになる。そこでは例えば動物を主人公とした物語に典型的に見られる、「狼=悪・恐ろしい者・襲う者/羊=善・弱きもの・庇護されるべき存在」という図式は「狼=侵略者/羊=団結し、抵抗し、勝利を得るべき象徴」へと転換している。またテーマを設けた絵画や作文の募集が行われて投稿への方向性がつけられ。さらに、この直前から新設されていた日本軍の横暴を報じる「児童新聞」も主要なコンテンツとなった。徐蘭君が『児童与戦争：国族、教育及大衆文化』（2015年）の中で、抗戦時期において児童は宣伝の受け手でもあり、主導者でもあったと指摘しているように、第一次上海事変後の『児童世界』はまさしく抗戦（抗日）宣伝の主導者たる愛国児童を生み出す児童誌として再出発したと言える。その「成功」を裏付けるように、児童の投稿には、抗日や救国については時には過激なアジェンダも見られる。この時期の児童雑誌には童子軍（ボーイスカウト）を奨励する記事が多く見られる。童子軍も後には実際に戦争に巻き込まれていることなども考え合わせると、児童雑誌が思想の面でも行動の面でも戦争に児童を巻き込む役割を果たしたことは否定できない。

先行課題の下での研究において、第一次上海事変の後の児童雑誌では、戦争ごっこを描いた中でも少年が兵隊、少女が従軍看護婦を演じるなど、ジェンダーによる役割分担が見られることは指摘した。高まる抗日意識の中で、少年には銃を手にするのが期待されていたのだ。

戦前日本における軍国少年・愛国少年の愛読書『少年倶楽部』のスローガンの一つが「冒険」であり、南洋一郎の冒険小説三篇が『児童世界』に転載されていた。南洋一郎「緑の無人島」は「無人島」として『児童世界』に転載された（1937）。「緑の無人島」は、「冒険」というロマンチズムで覆われていたが、実は日本の南進政策とも連動した、南洋諸島の領有権の問題にもつながる極めて政治的な作品であり、この「冒険」は地政学的な意味合いを帯びていた。ほかにも南洋の権益を主張する記事が『少年倶楽部』に掲載された。『児童世界』でも南洋特集号を出して南洋で活躍してきた華僑の歴史を説くなど、日中両国の児童雑誌が同時期に両国の南洋政策に応じた内容を載せ、あたかも代理戦争の様相を呈した。そして両国の児童たちが、それぞれの国の主張に沿った投稿をしている。南洋一郎の冒険小説の翻訳は大人気を博し、その影響が児童の投稿欄に寄せられた男子児童の作文の題材や文体にも見られる。「冒険」を愛する少年の形成に、少なくとも一部は日本からの影響があったことが指摘できよう。

* 佐々木睦「児童雑誌と戦争 『児童世界』を中心に 附：『児童世界』戦争関連記事目録（新1号～新30号）」（『人文学報』第518-12, 2022.3）

* 佐々木睦「南洋一郎冒険小説の民国期児童雑誌における受容」（『人文学報』第515-12, 2019.3）

児童と貧困

この時代の児童が直面していた大きな問題は貧困である。商務印書館発行の『少年』（1911年刊）と、開明書店発行の『新少年』（1936年刊）の記事や投稿を比較すると、『新少年』の読者層は学業を中断した者、就業児童が多く、また誌面も彼らに寄り添う記事が多い。学業ばかりでなく労働に打ち込む者も輝かしい未来に向かって前進する「新少年」として定義された。失業し入隊する児童の報告もあり、貧困と戦争とが直結している状況が背後にあったことを物語っている。

* 上原かおり「雑誌『新少年』に見る「新少年」のイメージ」（研究会7, 2018.8）

* 上原かおり「『少年』と『新少年』の読者に関する一考察」（研究会8, 2019.3）

* 上原かおり「開明書店における「新少年」イメージ 矛盾「少年印刷工」を手がかりに」（研究会12, 2022.3）

新中国に目を向けると、張楽平の連環画作品『二娃子』は、張楽平が1950年に土地改革運動と結び付けて創作した連環画だが、貧困にあえぎ、地主に追いやられて国民党軍に入れられる少年の姿が描かれている。本来張楽平は抗美援朝運動と結び付けて描くことも企図していたと証言しており、ここにも貧困から戦争にいやおうなしに巻き込まれていく少年像が見られる。

また児童雑誌や児童向けアニメーションにもよく見られる「虎退治」をする児童というモチーフの背後には、虎=アメリカという図式が隠れており、たとえそれが遊戯的なものであっても、その文脈では虎と闘う児童=兵士として読み解かれなければならない。

* 加部勇一郎「怒れる少年 張楽平『二娃子』を読む」（研究会12, 2022.3）

* 加部勇一郎「新中国の武松たち 「虎退治」の物語を読む」（『連環画研究』10, 2021.9）

総括

我々は多くの資料を眺め、冒険心を抱き、知識を得ようとする少年や、新しいメディアの中で躍動する少女を見た。しかし我々は研究を進める中で、児童と戦争、児童と貧困という大きな問題に直面せざるを得なかった。そこに立ち現れてきたのは戦士としての少年少女であり、労働者としての少年少女であった。決して目をそらすことのできないこれらの問題について、研究メンバーは最終年度に口頭、あるいは論文の形で発表したが、これらは本課題の下での研究の総括でもあり、また新しい研究の始まりでもある。

我々が当初研究目的とした少年少女表象の成立については、十分な解明がされたとは

評価できない。ただし、研究活動を通じて、未来の研究の糸口を多く得ることができた。その一つが上記の戦争と児童、児童と貧困の問題であった。

もう一つ、少年・少女というジェンダーの問題とともに解明すべきは、一般的な意味での「少年」、「幼年」、「童年」の意識の問題である。新中国以降、作家たちが自らの幼年から少年期を振り返る「童年」文学が盛んになる。その中には必ずと言っていいほど、「童年」との決別を告げる出来事が描かれる。その書き手たちがいつまでを自分の「童年」として、いつからを「少年」と見なしたか、その境界と見なされる出来事はどんな象徴的意味を持っているか。これもまた解明すべき新しい課題となるであろう。

最終的な研究成果としては、雑誌論文 13、図書 3、学会発表 21（うち招待講演 1、国際学会 2）。その他に発表論文の中文翻訳集も刊行した。

海外調査は 2018 年 9 月（上原・上海）、2019 年 3 月（佐々木・上海）に行かない、日本の冒険小説受容、少女歌舞劇、就業・失業児童などに関する貴重な資料を入手することができた。2020 年春季には合同調査を予定していたが、新型コロナが拡大しつつあり中止を余儀なくされた。

また、定例研究会を合計 6 回開催し、研究代表者、研究分担者以外に、他大学研究者や大学院生にも研究報告を行なっていただき、本プロジェクトが関連研究のプラットフォーム的役割を果たすことができたと評価できよう。

プロジェクト二年目にあたる 2019 年度後半から海外資料調査を断念せざるを得ず、研究期間を一年延長した。当初デザインしたプランを十全に完遂することはできなかったが、その中でメンバー個々が奮闘し、余りある成果を上げることができたと言えるのではないだろうか。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 佐々木睦	4. 巻 518-12
2. 論文標題 児童雑誌と戦争 『児童世界』を中心に 附：『児童世界』戦争関連記事目録（新1号～新30号）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 151-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加部勇一郎	4. 巻 10
2. 論文標題 新中国の武松たち 「虎退治」の物語を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 64-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加部勇一郎	4. 巻 124
2. 論文標題 アメと、アメを包むもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 vesta	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加部勇一郎	4. 巻 3
2. 論文標題 鉄腕アトムを、孫悟空と黒猫警長が助けるはなし	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キッチュ	6. 最初と最後の頁 128-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木睦	4. 巻 517-12
2. 論文標題 『児童世界』『少年百科全書』と“wonder”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 129-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木睦	4. 巻 No.516-12
2. 論文標題 黎錦暉『葡萄仙子』と宝塚少女歌劇	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 177-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木睦	4. 巻 No.515-12
2. 論文標題 南洋一郎冒険小説の民国期児童雑誌における受容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 75-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加部勇一郎	4. 巻 2
2. 論文標題 台湾を描いた連環画を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キッチュ	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加部勇一郎	4. 巻 8
2. 論文標題 アーカイブ化される連環画	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原かおり	4. 巻 3
2. 論文標題 中国「青春文学」の興隆と「青春」の表象	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大朋友	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原かおり	4. 巻 32
2. 論文標題 劉慈欣の創作におけるキャラクター小説化 『超新星紀元』から『三体』へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本中国当代文学研究会会報	6. 最初と最後の頁 12-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上原かおり	4. 巻 100
2. 論文標題 もう一つの「阿Q正伝」 科学読物作家・高士其の科学小説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 野草	6. 最初と最後の頁 110-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原かおり	4. 巻 2018年第2期
2. 論文標題 原田三夫与科学普及 從“理科”到“少年科学”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科普創作	6. 最初と最後の頁 80-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計21件(うち招待講演 1件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 民国期少女ブームの幻を追う
3. 学会等名 第12回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 怒れる少年 張樂平『二娃子』を読む
3. 学会等名 第12回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 開明書店における「新少年」イメージ 茅盾「少年印刷工」を手がかりに
3. 学会等名 第12回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 民国期児童読物のアーサー・ミー受容と“wonder”
3. 学会等名 第11回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 虎退治の連環画を読む
3. 学会等名 第11回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 顧均正「童話與児童」における議論について
3. 学会等名 第11回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 黎錦暉と宝塚少女歌劇2 「児童」の時代から「少女」の時代へ
3. 学会等名 第10回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 遊びと玩具のある暮らし 是澤博昭・日高真吾編『子どもたちの文化史：玩具にみる日本の近代』（臨川書店、2019）を読む
3. 学会等名 第10回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 「雑誌『新少年』に見る「新少年」のイメージ
3. 学会等名 第10回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 蝶と少女の季節 そして民国期児童雑誌に描かれた妖精
3. 学会等名 第9回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 武松になりたい子どもたち
3. 学会等名 第9回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 雑誌『新少年』に見る「新少年」のイメージ
3. 学会等名 第9回中国空想メディア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 黎錦暉「葡萄仙子」と宝塚少女歌劇団 附：大阪国際児童文学館・池田文庫調査報告
3. 学会等名 第8回中国空想メディア研究会（首都大学東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 連環画を用いた“童年”研究の可能性について：賀友直『賀友直画自己』を中心に
3. 学会等名 第8回中国空想メディア研究会（首都大学東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 『少年』と『新少年』の読者に関する一考察
3. 学会等名 第8回中国空想メディア研究会（首都大学東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 戦前日本『少年倶楽部』の民国期児童雑誌への影響 南洋一郎の冒険小説を中心に
3. 学会等名 華南理工大学・首都大学東京 漢日語言文化对比与翻譯研究合同研究会（広州・華南理工大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 20世紀30年代的中国科幻小説：《科学世界》雑誌所刊登的筱竹的“科学小説”
3. 学会等名 日台若手研究者会議 近現代中国・台湾における通俗小説と通俗文化研究（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木睦
2. 発表標題 「冒険」も海をわたったか 民国期児童雑誌の南洋一郎受容
3. 学会等名 第7回中国空想メディア研究会（首都大学東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 “童年”を彩るモノとコト：アメと包み紙を中心に
3. 学会等名 第7回中国空想メディア研究会（首都大学東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原かおり
2. 発表標題 雑誌『新少年』に見る「新少年」のイメージ
3. 学会等名 第7回中国空想メディア研究会（首都大学東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加部勇一郎
2. 発表標題 三毛と20世紀の中国
3. 学会等名 芝蘭会第5回講演会（札幌エルプラザ）（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 武田雅哉・加部勇一郎・田村容子編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 中国文学をつまみ食い：『詩経』から『三体』まで	

1. 著者名 加部 勇一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 346
3. 書名 清代小説『鏡花縁』を読む	

1. 著者名 上原かおり (大東和重・神谷まり子・城山拓也編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版社	5. 総ページ数 662 (上原担当: 275-278)
3. 書名 中国現代文学傑作セレクション 一九一〇 - 四〇年代のモダン・通俗・戦争 (上原担当: 顧均正「性転換」(原題: 性変) 翻訳および【解説】「近代中国人女性は「科学的性転換」の夢を見るか」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加部 勇一郎 (KABI YUUCHIRO) (30553044)	立命館大学・言語教育センター・嘱託講師 (34315)	
研究分担者	上原 かおり (関野かおり) (UEHARA KAORI) (30815478)	フェリス女学院大学・国際交流学部・准教授 (32711)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------